イトウ

イトウはサケの希少種で、日本における最大の淡水魚です。北海道だけでなく、サハリン（樺太）やロシア極東の千島列島でも生息が確認されています。かつて、２メートルにもおよぶ巨大なイトウが釧路湿原地のシラルトロ沼(湖)や阿寒川に生息していたと信じられていました。謎に包まれたイトウは、どう猛に他の動物を捕食することが知られており、また極めて臆病でもあり、ほとんど人目に触れることがないことから幻の魚と名付けられています。近年、乱獲と生息地の環境破壊によって、その生息数は劇的な減少に晒されております。特に、河川のダム建設によって産卵のために上流へ遡上することを阻まれています。2003年に環境省のレッドリストで絶滅危惧種に分類されており、また2006年には国際自然保護連合（IUCN）において、自然界での絶滅危機の高い可能性に直面する決定的危惧種としてリストアップされています。

食習慣

イトウはアイヌ語でチライと呼ばれています。アイヌの伝説によれば、熊や鹿にも襲いかかることができるほど強靭な魚で川の流れをも堰き止めるほどとされております。何と言っても、イトウは魚偏に鬼という漢字一文字で表されます。実際に、稚魚の1，2年間は主に昆虫や水中生物などを食べ、成長に従って、食習慣が成魚や甲殻類の捕食へ移行し、遂には、完全な成魚となってカエルやネズミやヘビといった大きな動物の捕食が始まります。

成長

体長約６０センチメートルとなったメスのイトウは、春の時期、最初の産卵の段階に入り、おおよそ2000個の卵を産みます。卵は2か月後に孵化します。成長速度は遅く、1年で約7センチメートル、3年で約20センチメートルに達します。平均的に、体長は1メートル以上に成長していきます。

産卵

オスのイトウは、メスが6年を要するのに対して、4年で成熟します。寿命は15年から16年です。4月の初旬から中旬にかけて、成魚は産卵地まで川の支流を泳ぎ登って行きます。魚たちは遡上に奮闘し、オスたちは、メスがそのままの状態に対して、目立つように体を鮮紅色に変化させアピールを行います。交配後、メスたちは川床の砂利で形作られた産卵用の巣の中に5，6回卵を産み付けます。産卵後死んでしまう他のサケの仲間たちと異なり、イトウは生涯で多くの回数の産卵をします。